

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492800048	事業の開始年月日	平成19年10月1日	
		指定年月日	平成19年10月1日	
法人名	株式会社 アプルール			
事業所名	ソレスタ秦野			
所在地	( 〒 259 -1306 ) 神奈川県秦野市戸川130-1			
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	9名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成29年4月11日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は、その人らしさの追求、心の満足といういつくしみの介護技術で、積極的に積極的にレクリエーション活動を行うなど、常に利用者本人の個性を慎重、いきる喜びの実現をめざして支援しています。</p>
---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成29年3月1日	評価機関 評価決定日	平成29年3月28日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p><b>【事業所の優れている点】</b>          ◇ 理念を基に、職員の目標や利用者本位のケアの実践          ・理念にある「その人らしさの追求」「心の満足」の実現を目指して、利用者への7つの約束①今までと同じ「日常生活」、②ここちよい「おもてなし」③(従業員教育)などを忠実に実践して、利用者本位のケアに取り組んでいる。          ・職員が目標を持って行動し良い行動に気付いた職員が、内容を記入して集積する仕組みを作り、マンネリ化防止に取り組んでいる。          ◇年間を通しての多彩な行事の実施          ・1月の出雲大社相模分祠への初詣うでを始め、節分、桃・端午の節句、お花見、七夕や納涼祭、敬老の日、お月見、クリスマス会などに加え、ボランティアによる演奏会や編物教室なども開き、利用者への楽しみを提供している。  <b>【事業所が工夫している点】</b>          ◇利用者の楽しみと健康に配慮した食事の工夫          ・栄養と美味、楽しみの食事を目指して、節ご飯などの季節食、毎月1日の赤飯、15日は郷土料理、20日はお寿司のほか薬膳食も提供している。          ◇業務改善への取り組み          ・家族・職員の要望を受け業務改善会議で話し合っ、緊急時への対応、報告書の記録方法、バイタル測定など日常のケアについて改善している。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ソレスタ秦野
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新入社員には、入社時も経営理念と「いづくしみの思草」を説明し、毎朝のミーティングや勉強会で、また介護の実施を通して、理念の実現に取り組んでいる。	・職員は朝のミーティングで、経営目標や利用者への7つの約束などを唱和し、利用者の「その人らしさの追求」「心の満足」「最後まで寄り添う」ことを念頭に、事業所が「第2の我が家」となるよう、利用者本位の個別ケアに励んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント企画のボランティアに、入って頂きコンサート・クリスマス会などの交流を年間を通して、利用者を楽しみを提供している。また、市主催の福祉フェスティバルに参加し地域行事に参加している。	・自治会に加入し、回覧板や自治会の会議に参加して情報を得ている。 ・地元のお祭りや一斉清掃に参加し、事業所で漫才のライブショーを開催して、地域住民を招いている。 ・コンサートやフラダンス、そば打ち体験、編み物教室など多様なボランティアを受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に根づくように、運営推進会議の参加者にご協力を得て、利用者様に対し安否確認、話し合いの場を持ち役立つことを考えている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催、最終日は28年12月21日、現在の活動を報告、意見交換を行った。	・偶数月に開催する運営推進会議には、自治会長、民生委員、家族代表、地域高齢者支援センターや市の高齢介護課職員が出席している。 ・事業所から利用者の様子を報告後、各委員から意見や提案を得て運営に反映している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	サービスの疑問などを市の担当者に確認のため伺うようにしている。	・運営推進会議に市の職員が出席し、必要な情報を得るほか、個別なケースにおいても日常的に相談や情報交換をしている。 ・市主催の福祉フェスティバルに参加し、事業所の紹介をするほか、研修にも参加している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	生命、身体の保護上、緊急やむを得ない場合を除き行っていない。また、拘束になる場合はご家族様、身体拘束委員会に相談を行う。今現在身体拘束は行っていない。	・身体拘束をしないケア実践のため、入所時研修で学び、その後は年1回勉強会で学習して、ケアに活かしている。 ・居住階（3階、4階）へはエレベーターを使用し、居室と玄関は開錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者様の入浴時、入床時排泄介助時など常にあざなどの確認、発言内容や精神状態のチェックなど、細かく注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会を開き、職員が制度の理解ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を行う前に、見学及び体験をして頂き、サービスを利用するにあたり、利用者の気持ちや希望、不安なことなどを十分にはなしあえる時間を取っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様への声掛けや会話を通して、その方の気持ちや思いを聞きとるようにしている。また、ご家族様とも連絡を密にし、利用者様の気持ちの代弁や、ご家族様への思いなどを聞き運営に役立てている。	・家族来訪時に、職員が声をかけて利用者の様子を報告し、意見や要望を聞いている。 ・来訪が少ない家族の場合は、電話報告の際に意見や要望を聞いて、運営に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝のミーティングや、スタッフ会議時に意見交換の場としている。	・管理者は、スタッフ会議や業務改善会議で職員からの意見や要望を聞き、また日々の会話を通じて、意見や提案を聞いている。 ・具体例として、車両を介護用に変更、朝食におかゆ食の採用、リネン交換日の変更などがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働条件と就業規則は整備している。また、全クルーを対象とした健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の勉強会、介護技術の向上をめざし、指導研鑽を行っている。社外の勉強会は、クルーが受けられる機会を増やしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	介護支援専門員協会に参加し、講演会に参加することにより交流を図っている。ケアマネ以外のクルーも同業者との交流をもてるように努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方にあった対応の仕方をし、お互いの信頼関係をつくることを心がけている。笑顔で接する、優しいこえかけ、傾聴する姿勢など、その方が安心して、話して頂ける場が提供できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体験利用を提案し、事業所の雰囲気やサービス内容の理解、具体的な利用方法について説明し、初期の不安や疑問の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始初期での関係づくりを目的とした体験利用時に、本当にこのサービスが必要か、他のサービスがないかを検討する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ただ、食事や入浴、レクリエーションを提案するだけでなく、利用者様に昔のことや体験されたことを聞く機会を多く持ち、家族のような時間を過ごしていきたい。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	自宅での様子と、こちらでの様子が必ずしも同じではなく、そのことを理解した上で、よく家族の気持ちを聞くように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的な在宅への帰宅などを支援していきたい。また、なじみの方に来所して頂き、利用者様の自室などでの有意義な時間を持つて頂けるよう支援していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近所や仕事上の知人、趣味仲間が、利用者を訪問している。</li> <li>・来訪者を居室に案内し、お茶を出して寛いでもらっている。</li> <li>・職員が車で馴染みのスーパーや公園などに、利用者と共に外出して、要望に応じている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれのペースで、過ごされるも、お互いが必要な人になってきている。職員が間に入って今後も支援していきたい。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療処置が必要なため、病院に移られた方がおられ、契約終了時にも相談に応じている場合もある。終了後も必要時は相談支援に応じる体制にしている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	その方の置かれている状況、望むことは何かということをお話の中からつかむように、心かけている。スタッフがそのような意識で情報をキャッチできるように努めている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時のアセスメントやその後の利用者との会話や家族からの情報を、ミーティングで報告して情報の共有化に努め、思いや意向の把握に役立っている。</li> <li>・表現が不得手な利用者の場合は、表情、仕草などから、思いや意向を汲み取っている。</li> </ul>	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生まれ育ったところ、家族、結婚してから現在に至るまでの生活状況などをお聞きし、その方をよく知るように努めている。ご本院より確認がとれないときは、ご家族様に確認し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの把握と合わせ、日々変わってくる状態（できること、できなくなっていること）を把握し、どのような支援が必要か話し合っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	随時介護計画の検討とモニタリングを開き、ご本人やご家族と話し合い、意見や希望を反映できるようにしている。	・本人や家族、医師の意見、モニタリング結果を基に作成した素案を、職員会議で検討して、分かり易い介護計画を作成している。 ・計画は、3か月ごとに見直しを行うほか、状況の変化に応じてその都度変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	シニア様の変化を業務日誌・個別記録・介護支援経過記録に記入し、日々の業務、介護計画の見直し時に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況、ニーズに合った対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	非常時・緊急時・近隣の方に助けて頂けなければならないときもあるため、協定を結んでいる。また、毎日が安全・安心に過ごせるよう支援を今後も行っていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人、家族と話し合い、往診医の紹介、またかかりつけの医師対応も行っている。状況変化時は、すぐに家族・主治医に連絡・相談を行っている。	・入所前のかかりつけ医での受診継続を支援しているが、協力医を主治医としている利用者もいる。 ・主治医は月2回往診に加え、24時間の連携体制を敷き、緊急にも対応している。 ・耳鼻科などへの受診は、原則家族に付き添いをお願いしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内は看護職員はいないため、変化が見られたときは、主治医へ相談・受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院へ伺い、担当看護師等に早期退院を目標に状況確認を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃より様子観察を怠らず、変化を見のがさないよう努め、常に家族・関係医療機関に報告・指示をいただき、本人、ご家族様・医療関係者・スタッフで共有していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重篤の場合は、医師、家族と連携して看取りまで対応する体勢を整えているが、家族の意向により、入院しているケースが多く、これまでに看取り実績はない。</li> <li>・看取りに関する指針を策定し、終末期ケアの勉強会を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2の我が家の事業所で、最後を迎えたいとの利用者や家族の意向もありますので、今後、一層看取りに関する勉強会の実施が期待されます。</li> </ul>
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを使用し、定期的に各自が、目を通すようにしている。ひやりはつとを日常生活に取り入れ、「万が一事故発生時は、迅速に対応、再発防止に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理意識を高めるため、避難・通報訓練の実施と室内の防火設備の点検をする。また、近隣の自治会との協定を結んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消防署の協力を得、年2回消火通報の習熟と避難訓練を行っている。</li> <li>・地域と、避難場所や緊急時の対応などの防災協定を結んでいる。</li> <li>・災害に備え、3日分強の飲料水、食料と毛布などを確保している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者・家族への挨拶・言葉かけは、優しく思いやりを持って行うようにしている。個人情報に関しては、利用者様がいらっしゃる場所で話さない。スタッフ以外の方に話さないなどを徹底している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は毎月の勉強会で接遇、個人情報保護について話し合い、利用者、家族にお客様として接し、言葉遣いや対応に気を付けている。</li> <li>・職員の不適切な対応がある場合、職員同士で注意し合っている。</li> <li>・個人情報関係の書類は、鍵付き書庫に収納している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の考えや思いをスタッフと話せるような、信頼関係を築けるようにしている。どんな場合でも決定権は利用者様にある。それをどう支援していくかを、職員で話し合って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の日常生活リズムに合わせて、個別対応している。お部屋や団らん室でテレビを見るなど、その方のペースに合わせた生活（暮らし）を送っていただけるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人・ご家族様の希望に沿ったおしゃれが出来るように支援している。利用者様の身だしなみを大切にしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節感や行事食など提供し、楽しんで頂いている。個別対応で嫌いな食材のときはあらかじめメニューを変えて対応している。食事の準備やおしぼり作りなど、手伝って頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調理は併設の老人ホームの厨房で行い、ご飯はユニットで焚いて提供している。毎月、郷土料理の日、お寿司の日を設けているほか、誕生日食、行事食を提供し、食事を楽しめるようになっている。</li> <li>・利用者はテーブル拭きなどを手伝っている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取状況は必ず確認している。毎日のメニューは栄養士により献立がたてられている。食事量が低下の時は医師に相談して栄養補給剤を処方して頂き、定期的に補給している。水分も好みの飲み物を用意し飲んで頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの充実により、口から摂取できること、おいしく食べれることが自立とQOLの向上につながるため、歯ブラシを用いた口腔ケア、義歯の手入れをしています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄には個人のパターンがあるので、職員間で情報を共有し、本人の体調を考慮し、トイレ誘導を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排泄状況を日誌に記録し、パターンを把握して、時間をみてトイレ誘導をしている。</li> <li>・声かけとポータブルトイレを使用して、リハパンから布パンに改善した利用者が2名いる。</li> </ul>	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維の多い野菜や寒天を多く摂取していただいたり、水分を多く提供している。場合によっては、医師に相談し下剤にて調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調に応じ一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・週2回を基本として午前、午後に利用者の希望で入浴し、利用者の状況で機械浴にも対応している。</li> <li>・季節のゆず湯を楽しみ、お風呂の湯は随時取り替え、ゆっくり入浴して職員と本音の話ができる時間にしている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を考慮し、一人ひとりの生活習慣（リズム）に合わせて気持ち良く休息して頂けるように支援している。休んで頂く前は、排泄誘導を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋にて薬の作用について確認できるように情報提供及び閲覧できるようにしている。内服の変更時は、そのつどスタッフに情報提供を行っている。内服時は、利用者様の前で確認を行い内服して頂く。内服できたら確認も行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の楽しみ、喜びを日々の活動に取り入れるようにしている。コンサートや行事への参加、買い出しなどを今後も支援していきたい。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お花見・遠足・施設外への散歩・買い出しなどを支援している。今後も支援していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気の良い日は毎日庭を散歩している。</li> <li>・車でスーパーに買い物に出かけたり、出雲大社相模分祠に初詣、戸川公園、小田原フラワーガーデンなどに出かけている。</li> <li>・利用者の希望があれば、職員がお墓参りへの支援をしている。</li> </ul>	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している利用者様はおられず、必要時にご家族様に相談をしている。金銭の所持を希望の方はご家族様と相談の上使用できるように、支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に沿って電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の壁に、季節の花を飾り、またシニア様が作った作品を展示している。また、テレビ前にはソファを用意し利用者様に寛いで頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食堂は明るく、湿温に配慮し、机とソファが用意されている。</li> <li>・利用者はトランプやゲームをしたり、本や新聞を読んだり、編み物をして思い思いに過ごしている。</li> <li>・廊下の壁に行事の写真や利用者の作品が飾られている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれに、食堂や団らん室での、自身の安心して過ごせる場所があったり、一緒に過ごせたり、思い思いの過ごし方をして頂いている。また、自室で過ごされる方もいらっしゃるため、配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビ・テーブル・たんすを設置、それぞれに使い慣れたものを持参され、使用されている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・居室にベッド、カーテン、エアコン、トイレ、洗面台、ナースコールが備えられている。</li> <li>・利用者は使い慣れたタンスやTV、仏壇を持ち込み、写真を飾り、職員が清掃、整理を行い、居心地よく過ごせる居室になっている。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・居室・トイレ内・階段に手すりを取り付けて危険防止に努めている。		

# 目 標 達 成 計 画

事業所名 ソレスタ秦野

作成日 平成29年2月8日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		外出レクリエーションが出来ない	1ヶ月に一回外出する	1月初詣、2月梅見、3月お花見予定	1 2ヶ月
2					
3					
4					
5					